

栽培漁業事業化総合推進事業（抄録）

マダイ・ヒラメ放流効果調査報告書（出雲海域）

（平成7～8年度の調査結果）

安達二郎、後藤悦郎他

1 目的

島根県では栽培漁業を積極的に推進するため、全県下でマダイ、ヒラメの人工種苗放流が実施されている。その放流効果の算定のために平成7年度から関係各機関が調査体制を整えて出雲海域、石見海域、隠岐海域において市場調査を実施している。ここでは、出雲海域の平成7～8年度の調査結果について報告する。

なお、調査の詳細は「栽培漁業事業化総合推進事業マダイ・ヒラメ放流効果調査報告書」に報告されているので参照されたい。

2 調査結果の概要

マダイ：年度毎の放流尾数は4,000尾（昭和63年度）～231,000尾（昭和62年度）で最近10年間の合計は約90万尾となっている。

出雲海域の年間の水揚げ量は214～340トンで増加の傾向にある。主な漁業種類は沖合底曳、小型底曳で全体の半分以上の200トン弱を漁獲している。

恵曇漁協の沖合底曳について市場調査を実施した。平成7年度に市場調査で測定したマダイ2,262尾のうち鼻孔異常魚は64尾、鼻孔異常の割合は2.9%であった。また、平成8年度に測定した527尾については鼻孔異常魚が20尾、鼻孔異常の割合は3.9%であった。

年齢組成比率は平成7年度は1才魚（42.0%）、3才魚（26.4%）、2才魚（24.4%）の順で多かった。平成8年度は3才魚（33.3%）、2才魚（30.2%）、4才魚（28.0%）の順で多かった。

マダイ放流魚の水揚げ重量と金額は平成7年度が3,118kg、128万円、平成8年度が2,400kg、151万円と推定された。

恵曇漁協沖合底曳全体の水揚げ重量に対する放流魚の水揚げ重量の割合は平成7年度が5.1%、平成8年度が5.9%であった。

ヒラメ：年度ごとの放流尾数は29,000尾（平成3年度）～157,740尾（平成8年度）で9年間の合計は約65万尾となっている。

出雲海域の年間の水揚げ量は156～187トンであった。平成8年度では小型底曳が最も多く水揚げしており、全体の53%を占めている。

恵曇漁協の沖合底曳について市場調査を実施した。平成7年7月～8年3月では測定したヒラメ293尾のうち色素異常魚は23尾、色素異常魚の割合は7.8%であった。平成8年度は測定したヒラメ399尾のうち色素異常魚は16尾、色素異常魚の割合は4.0%であった。

ヒラメ放流魚の水揚げ重量と金額は平成8年度は1,060kg、148万円と推定された。恵曇漁協沖合底曳全体の水揚げ重量に対する放流魚の水揚げ重量の割合は平成8年度で5%であった。